

ひしのみだより

平成31年4月26日発行

発行責任者 千住由一朗

落ち着いた生活へ！

若葉が茂り、新緑が映える気持ちのよい季節になりました。園のこいのぼりもやわらかな陽射しを受けながら気持ちよさそうに泳いでいます。

新しいお友達を迎えて、もう2週間が過ぎようとしています。登園時、涙が出ていた新入園児も、先生やお友達に少しずつ慣れて明るい笑顔を見せてくれるようになってきました。進級児もひとつ大きくなった喜びを感じ、落ち着いた生活を過ごしています。

さわやかな風が吹く皐月、天気の良い日には外でたくさん体を動かし元気いっぱいに過ごしたいものです。しかし、これから楽しい連休が始まります。今年は長い連休となります。連休後に疲れが出ないように、体調管理にも配慮をお願いいたします。



ひしのみ会(PTA)総会、保育参観有難うございました

4月24日(水)は、ひしのみ会会員の皆様にお集まりいただき、平成30年度の業務報告・会計報告、そして平成31年度の計画を審議、承認していただきました。

平成30年度の運営委員、クラス委員の皆様、本当にご苦労様でした。

本年度の運営委員、クラス役員の皆様、この1年間よろしく願いいたします。子どもたちのよりよき成長のため、子どもたちの喜ぶ笑顔のため、ともに力を合わせていきましょう。

「言葉による伝え合い」の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは！

昨年度、幼保連携型教育・保育要領が改訂され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な10の姿」の内容を園便りで紹介してきました。しかし、全ての姿を連載できませんので、残り2つの姿を5、6月の園便りで紹介します。今回は、「言葉による伝え合い」の姿です。

「保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。」と示されています。

(例)

・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを伝える相手や状況に応じて分かるように話したり、話し合ったりするなどして、言葉を通して先生や友達と心を通わせるようになる。

・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びや生活の中で文字などが果たす意味や役割、必要性が分かり、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりするようになる。

・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わうことを通して、その言葉が持つ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しむようになる。

子どもに言葉で伝える楽しさを教えると同時に、相手の話を聞くことの大切さを教える必要があります。まずは、子どもの意見や考えを肯定的に受容しましょう。そして、言葉で表現したことが周りの人に認めてもらえたという経験は、子どもの自信となり、胸を張って考えを伝えられるようになります。

